

●●はぐくむ●●

東京電機大学オープンキャンパスでの軽金属製品展示 Exhibition of light metal products at Tokyo Denki University open campus

小貫 祐介
Yusuke ONUKI

東京電機大学 東京千住キャンパスでは、2025年6月8日、8月2日、8月3日にオープンキャンパス2025を実施した。ありがたいことに今年度も天候に恵まれ、高校生とその保護者を中心に多数の来場者があった。

2023年より、軽金属製品の貸与を受けて、筆者の所属する先端機械工学科にて展示をしている。大型製品のアルミニウム合金製エンジンフードは、その見た目のインパクトから来場者だけでなく本学教員からも大変好評である。当学科は自動車関連技術の一つの柱としてアピールポイントとしているため、当初は筆者の研究室の関連展示というかたちであったが、今年は学科全体での展示品という扱いに格上げされた。

東京近郊の若者の自動車離れが指摘されて久しいが、自動車は今も身近な工業製品であり、我が国が世界に誇る産業の一つであることから、学生の自動車産業に対する関心は依然として高い。本学の別の教員が展示したF1用エンジン部品やドライブシミュレーターなどと合わせて、大いに魅力的な学科展示を構成できたと考えている。

一方で、小型製品として、昨年提供いただいたアルミニウム缶成形過程のサンプルや、今年提供いただいた着色アルマイト処理板のサンプルは、当研究室で展示をしたが、あまり来場者がいなかったようである。これは当研究室を訪問するための動線が悪い（入口が巨大なトイレの案内掲示で隠されている！）など、多少は言い訳もしたいところではあるが、今後の課題の一つであると認識している。

アルマイト被覆へのレーザー刻印は大変美しく処理できることが知られている。当研究室ではレーザーを用いた加工熱処理の研究を行っているので、次年度はこれを生かしたノベルティの制作・配布もしくは加工体験などの企画ができないか、考えているところである。

本学のオープンキャンパスは3日間ともほぼ教職員総出、多数の学生アルバイトも動員し、東京近郊の理工系大学のなかではかなり力を入れているほうだと思われる。むしろ少子化社会への対策の一環ではあるが、高校で行われるキャリア教育が拡充されてきている背景もあり、大学へ進学する学生の意識づけに役立っているように思われる。どういうことを将来の職業にしたいかということについて、約20年前に大学生をしていた筆者の世代に比べて、明確な意志をもって進学する者が多いように感じられる。

その一方で高校生以前の生徒にとっては機械工学や金属材

料などは、ほとんど授業でも扱わない分野であり、未知の世界であるかもしれない。このため、金属材料をやるんだという志をもって大学に進学する者は少ないだろうと考えていた。しかし、近年では材料をやりたいといって推薦入試を受験する学生も見られるようになっており、多少の広報効果があったと実感している。このことから、オープンキャンパスで軽金属材料に興味をもってもらえれば、（仮に本学に進学しなかったとしても）どこかで次世代の研究者や企業人材として成長する芽が育つのではないかと期待する。今後も大学の宣伝だけでなく、軽金属分野の広報にもなるような展示やイベントを続けていければよいと考えている。

最後にこの場をお借りして、軽金属製品の提供・貸与を企画・実施していただいた軽金属学会人材育成WG各位および製品提供をいただいた企業の皆様に感謝申し上げる。



図1 先端機械工学科・学科展示室の様子



図2 アルミニウム合金エンジンフードとドライブシミュレーターの展示